

区分・種別	県指定無形民俗文化財		
名称	かしまのかいねり 鹿島の櫓練り		
所在地	松山市鹿島		
所有者		保護団体	鹿島櫓練保存会
指定年月日	昭和41年4月5日 県無形文化財 昭和52年1月11日 県指定替え		
解説	<p>この行事は、鹿島神社の春秋例祭（5月3日・10月第二月曜日）に神輿の海上渡御の先供として催される勇壮な行事である。鹿島は松山市北条辻の沖合400mに浮かぶ小島で鹿島神社を祭る信仰の島であり、城塞でもあった。</p> <p>神輿に先供する船は「櫓伝馬^{かいでんま}」と呼ばれ、伝馬船を2隻横になぎ合わせたもので、同時に踊り船（櫓練り船）として船上で「櫓練り踊り」を披露しながら、神輿を乗せた御座船^{えいこう}を曳航^{いづきなだ}して斎灘を回る。</p> <p>この行事の起源は定かでなく、地元では河野水軍の戦勝祈願とか祝勝奉賛に由来すると伝えている。櫓伝馬にはちょうちんをつけ、高く掲げた2本の笹竹には吹流し、日の丸の小旗を飾りつけている。櫓練り踊りは、ボンデンを持って櫓伝馬の船首に立つ少年2人と、ケンガイを手に船尾に立つ青年2人がそれぞれの持ち物を振りつつ踊る。動作、掛け声、鉦鼓^{しょうこ}の囃^{はやし}など、すべて古式にのっとる独特の伝統行事である。</p>		

